

2016年度 国際助成プログラム

換金作物栽培地域における循環型有機農業の実践に向けた 若手農家リーダーの育成プロジェクト

Exchange Program for young farmers of Philippines, Timor Leste and Laos
～Fostering Youth Farmers' Leaders toward the Practices of Natural Circularity Agriculture
～



代表者：箕曲在弘 発表者：野川未央

課題と目標

- ✓ 東南アジアの換金作物栽培地域の農家は、気候変動や病虫害の影響、国際市場価格の変動など、多様なリスクに直面している。
- ✓ この結果、持続可能な農業や安定的な食料確保が難しくなっている。
- ✓ こうしたリスクに対して、日本や他国からの技術指導を受けるだけでは、外からの押しつけになり、農家のモチベーションの向上にはつながらない。



こうした課題に直面する

ラオス(ボラベン高原)、東ティモール(エルメラ県)、フィリピン(ネグロス島)において、若手農家が相互に交流する場をもつことにより、

- ①住民自身が地域の生態系の多様性や自然資源の価値を見直し、
- ②持続可能な農業を実践し、
- ③次世代にその実践を継承していける農民リーダーを育成すること

を目指す。

フェアトレード(民衆交易)



コーヒー



砂糖
(サトウキビ)

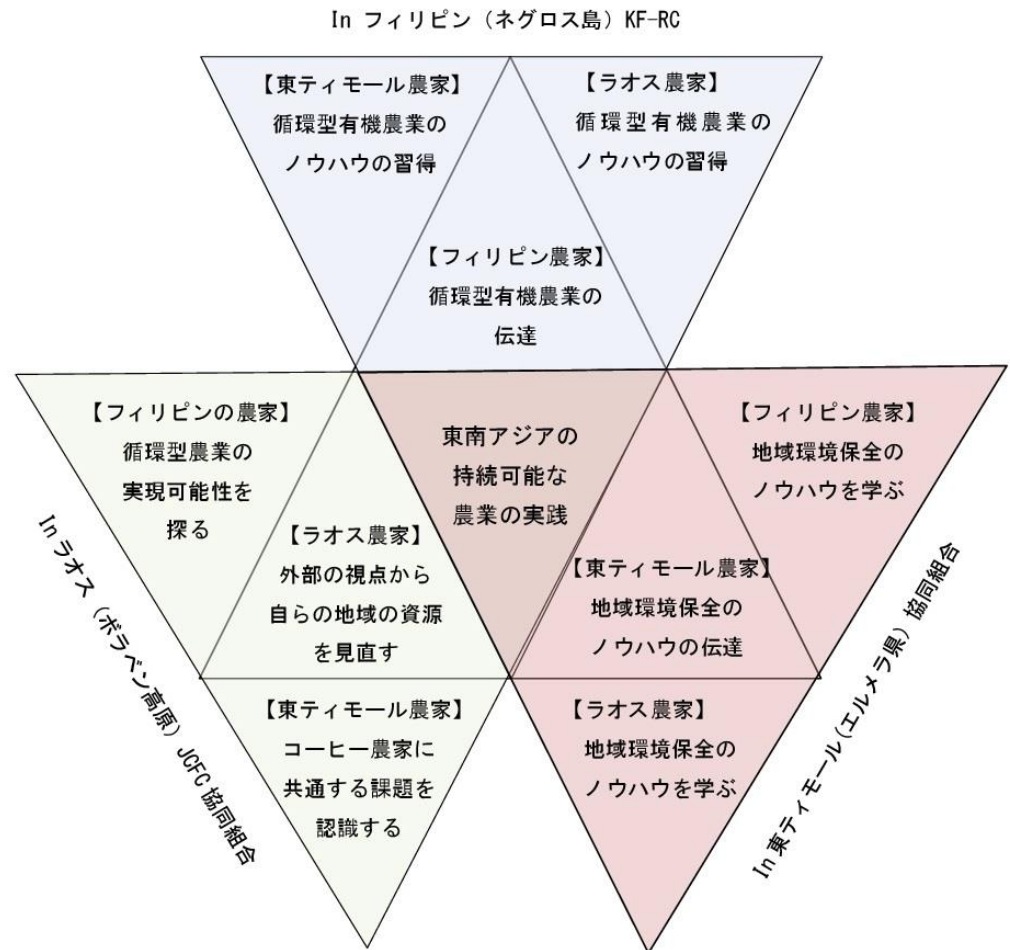


コーヒー



主な活動内容

ラオス、フィリピン、東ティモールの小規模農家の循環型有機農業の実践に向けた若手農家リーダーの育成を目指し、3カ国の若手農民がそれぞれの地域を訪問し、農家や農地の観察や意見交換をしたり、ワークショップを通じて経験や気づきを共有したりするなど、お互いに交流する場を設ける。



主な参加メンバー

フィリピン
ネグロス島



Jonel
(Farmer / KF-RC staff)



Elimar
(Farmer / KF-RC staff)



Randy
(Farmer / KF-RC trainee)



Michael
(Farmer / KF-RC trainee)

ラオス
ボラベン高原



Taykham
(Coffee farmer)



Sith
(Coffee farmer)



Lattana
(Coffee farmer)

東ティモール
エルメラ県



Marcus
(Coffee farmer)



Augustu
(Coffee farmer)



Marcelo
(Coffee farmer)



Paula
(APLA local staff)

活動スケジュール

2016年10月
(別資金で実施)

フィリピン訪問
(東ティモール組)

2017年4月

東ティモール訪問
(3か国交流)



2017年3月

フィリピン訪問
(ラオス組)



2017年9月

ラオス訪問
(3か国交流)



★一年間の振り返り
★アクションプラン発表

- 記録動画の作成
- 4か国語(イロongo語、テトウン語、ラオ語、日本語)の報告書作成

一年間の振り返りを発表



今後のアクションプラン発表



プロジェクトの成果

- ✓ (社会主義国ゆえの)トップダウンの意思
ラオスにおいて、若手の女性3人がプロ
3か国の参加者の中で、最も大きな「変
- ✓ フィリピンの参加メンバーの中から、本
に理解し、他国の参加者への提案やプロ
が上がってきたこと。
- ✓ 9月のラオス訪問時に、3か国の参加者
についてのプレゼンを成し遂げたこと。将
ンプランを作成したこと。
- ✓ 一年間にわたる交流プログラム終了後
活用して情報交換し、互いに刺激を与え
+ 日本側の「媒介者」としての役割の再認



工夫した点

- ✓ 毎日、必ずエバリュエーションの時間を設け、その日の気づきや学びを振り返り、他のメンバーと共有するようにした点
- ✓ できるだけその後の「実践」に結びつくよう、身体を動かすプログラムによって具体的な技術の共有をめざした点
- ✓ 日本人スタッフは、ファシリテーター・通訳に徹するようにつとめ、参加者の自発的な行動を促すようにした点
- ✓ 交流プログラムの参加者だけにとどまらず、各訪問地域のコミュニティの人びとにも刺激を与えられるように意識してプログラムを計画した点
- ✓ 参加者の反応などから、臨機応変にプログラムの内容を修正・変更するようにつとめた点



苦勞した点・反省点

- ✓ 初めて参加するラオスのメンバーの意識への働きかけ
 - ✓ 3か国語の通訳: 時間的な問題、スタッフの労力
 - ✓ 日々の詳細な報告作成(ただし、後から大変役立った)
 - ✓ プログラム実施の時期: コーヒーの収穫時期を避けると、どうしても雨季と重なってしまう
-
- ✓ ネグロス訪問時の現場でのプログラム内容の詰め込みすぎ
 - ✓ ラオス訪問時の現場でのプログラムの準備不足: APLAの現地との関わり、ファシリテーションカに規定されたところが大きい



ありがとうございました！

